



神奈川3区国政対策委員長 前県会議員

き さ き
木佐木 ただまさ

日本共産党 見解を紹介します

いのちとくらし

守る政治をご一緒に

<プロフィール>

- 神奈川大学法学部卒
- 元法律事務所職員
- よこはま健康友の会 会長
- 横浜東民商顧問
- 弓道初段 1984年生まれ

草の根の声が共産党の力の源

コロナ影響の現場聞き取り 神奈川区の保育園へ

只今、コロナ禍でのお困りごとを伺って連日歩いています。

先日は、神奈川区内の保育園を重点的に回り、行政への要望なども伺ってきました。

普段交流のある園だけではなく、初めて伺う園もあり様々な要望を聞かせてもらいました。

中でも多かったのは、「消毒などの物品について補助が出たのはありがたいが、補助金が届くのが遅い。今年度の補助はどうなるのかわからない」「子どもたちとの接触は避けられないのにワクチン接種がいつになるのかわからず、心配」などコロナ禍での不安が出されました。

あまりに低い賃金、古い配置基準 社会の土台支える仕事なのに…

県議時代に、人手不足や低賃金の問題を取り上げていたことを話すと、「(低賃金を抜本的に見直さない) 国は保育を軽く見ているというように感じる」と語られました。私も「(補助金の基準となる) 公定価格を改めさせて賃金を上げるよう頑張ります」とお話させていただきました。

別の園では、「配置基準をどうにかしてほしい。1人の保育士が3人の0歳児を見るような基準はおかしい。ここを改めてくれるならすべての



4/7、16の訪問行動 柴田豊勝元市議(奥)と

保育士が応援すると思う」との訴えがあり、日本共産党は外国の配置基準と比べてもあまりにもひどい基準だと指摘して改めることを求めてきたことも紹介しました。

こうした課題は長い間指摘されてきたにも関わらずなかなか改善していません。背景には、政府に「家庭の中の仕事だったから安くていいんだ」という発想があるのではないかと感じます。こども庁の話も聞こえてきますが、こうした点に目を向けられなければ子どもたちの成長や発達を保障することはできません。

引き続き、草の根の活動で伺った皆さんの声を政治と社会を前進させる力にしていきたいと思っています。

お困りごと・ご不安事がありましたら是非お声掛けください。